

ニーズレター

発行日 2022年10月28日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

秋号



小豆島 中山千枚田

.....

もくじ

	頁
○ 巻頭言	2
○ ～御縁に感謝～	3
○ 入居者の声	4-5
○ 新型コロナウイルス感染体験記	6-7
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8

巻頭言

ホームワーカーだからできる事

理事（ホームワーカー） 南 孝則

当法人にホームワーカー（HW）としてお世話になり1年半が過ぎました。そして今年度から理事としても関わらせて頂くこととなりました。福祉に関して経験も知識も浅い私ですが、他の理事の方のお言葉も頂き微力ながら協力させて頂ければと思っています。

入職当初は福祉の仕事については漠然としたイメージしかありませんでした。しかし、入居者の方と日々を過ごしているうちに支援という事が少しずつ具体的になってきたように感じます。

まず一つ目は「入居者さんの数だけ支援の数がある」という事です。人それぞれに個性があるように病気や障がいも違います。その為必要な支援や望まれる支援も違います。一人ひとりにあった支援を考え行う事が大切であると思うようになりました。

そしてもう一つは「支援者側からの勝手な支援にならない事」です。利用者本人の気持ちや願いを考えず、支援者の思いだけの支援になってはなりません。病気や障がいの症状によって、ご自身で判断がうまくできないときや自分の意思が発揮できないときもあると思います。そんな時でも本人が何を望んでいるのかを十分に聞き取って何を大切にしなければならないのかを支援者が共有し、ご本人の思いに寄り添った支援を目指す事が大切です。私はある入居者さんとののかかわりの中で、HWは日常と一緒に過ごしている関係性の深い立場だと改めて気づきました。日々の生活の中でコミュニケーションを取り、会話の中から本人が本当に望んでいる事や気持ちを理解しようと心がけて関われば、その方に一番大切な支援を想像し提案する事ができると思います。むしろそれはHWだからこそできる事だとより強く感じました。私は何気ない日常生活の中でアンテナを張り一人ひとりに何が必要なのか、何を望んでいるのかを受け止める事の大切さを学びました。これからもHWとして入居者に寄り添い、本人の目指す目標にむけて伴走していきたいと思います。もちろんそれはたやすい事ではありませんが、目指していきます。

入居者の皆様、理事並びに職員の皆様そして関係者の皆様方、どうぞこれからも宜しくお願い致します。



関係者からの声

～御縁に感謝～ グループホームネット香川 との出会い

小野 博秋

出会いのきっかけは・・・「私らしい理想の暮らし」

私らしい理想の暮らしのために必要となる <お部屋探し> について、お声掛けいただいたことがきっかけとなりお付き合いがスタートいたしました。

私は高松市内の不動産店舗へ勤めて約10年、多くのお客様との～御縁～に恵まれその一つひとつの出会いが思い出であり宝となりました。その宝の一つがグループホームネット香川 との出会いです。

この出会いがあったからこそ、私の仕事に新たな挑戦が生まれ、挑戦していく中で様々な経験をさせていただき、その経験こそが私の力へと結びついております。

そのような出会いから生まれる経験は決してお金で買うことができないものであり経験から得られる「力」は一朝一夕で得られるものではありません。だからこそ宝物だと感じます。

私の仕事ではお部屋探しの他、不動産管理というとても重要な任務があり、この管理においてグループホームネット香川との関係を深めております。

冒頭に記載いたしました・・・「私らしい理想の暮らし」を送っていただくには、当然お部屋の雰囲気などの目に見えるオシャレさは必要です。

しかし実際に生活を送るとなると、目に見えにくい設備や周辺環境、更には近隣トラブルや設備トラブルなど多くの不安要素がついてきます。そのような不安要素を少しでも軽減させていただくのが私共の務めであります。

そのように『縁の下の力持ち』として、安心してお住まいいただけるよう、不動産管理を通してグループホームネット香川 との関りを今後も一層深めていきたいと願っております。

最後に、グループホームネット香川 を通してお住まいいただいております「ご入居者様」との御縁にも感謝申し上げます。



利用者からの声

一人暮らしを始めて3か月目

ペンネーム K・I

自分が一人暮らしを始めるきっかけになったのは会社を退職したことです。家族との折り合いが悪く、一人暮らしをしてみたいと思っていたのでその事を病院で言ったところグループホームを勧められました。ただ一人暮らしを37歳ですることについて今まで食事も衣服も親任せだったのでものすごく勇気がいりました。また、仕事を辞める気満々だったので（この先どうしよう）という不安がありました。でも、いつまでも決められないでは何も変わらないと思い、将来に不安を抱えた状態で一人暮らしを始める事にしました。

グループホームに入居して考えていた事は、長期の休業中だったのでスペイン巡礼旅行に行きたいと思っていました。パスポートを取り、リュックも寝袋も買って後はインターネットで申し込みをするだけという状態になって、医者に止められました。なんでも海外で病状が悪くなると医者が迎えに行かなければならないから近場にしてくれという事でした。

途方に暮れて、仕事を辞める気満々で退職願を出そうと会社に行ったのですが、なんだかんだで仕事を続ける事になりました。正直ものすごく嫌だったのですがグループホームに入ってから仕事から帰ってくると愚痴を聞いてくれる人がいます。酒飲みみたいにぐだぐだ「仕事を辞めたい」と語る毎日ですが、グループホームでストレス発散しているので何とか踏みとどまって仕事を続けることができます。またみんなと（と言っても2人ですが）話すことで何とか心の平静を保っている毎日です。またしんどいながらも職場に行くと楽しい事もあります。それは人と話す事です。基本仕事の事以外、私語厳禁ですが人と話して話が盛り上がると生きててよかったと思うことがあります。

今後、グループホームの共同部屋でぺちゃくちゃ喋って人生を楽しみたいです。





自分のからだと向き合って

ペンネーム 黒豆大福

こんにちは。皆様、身体は健康ですか？

私は、精神科の病名は統合失調症です、身体の方は、訳があり腎臓が1つしかありません。脾臓もありません。胆石も小さいのが20~30個あります。それから、チョコレート嚢腫、甲状腺腫瘍もあり良性ですが。悪くなれば癌となります。

健康な人の腎臓は2つありますが、私は1つなので、1つの腎臓だけでがんばっていますが、1つになると残された腎臓は大きくなるらしいのです。どのくらい大きくなっているのかは、エコーで先生に見せてもらうのですが、片方がないから比べようがなく「そうなんだあ〜」としか思うほかありません。

あんまり自分の身体が悪いからって思うとほんとに悪くなるような気がして、私はいつも「大丈夫、大丈夫」って思うようにしています。お陰様でグループホーム入居2年目ですが、精神も身体も現状維持で生活できています。

皆様、自分のからだと向き合って、大切に生きてください。



新型コロナウイルス感染体験記

新型コロナウイルス感染体験記

ホームワーカー 田中 利衣子

7月中旬ごろから県内でコロナウイルス感染症感染者が増え子どもの学校や学童保育園からコロナウイルス感染症の連絡が頻繁に送られて来るようになりました。私の家族は4月に夫、6月に長男が感染した事もあり家庭でも感染対策に気を付けていました。

しかし、今回次男に頭痛と発熱があり、発熱外来を受診し感染が分かりました。家庭内で感染をしないように感染対策について家族で話し合いをして息子の看病をしていましたが、感染力が強くて子どもたちが次々に感染していきました。

私も感染対策をして気を付けていましたが、喉の痛みを感じ、もしかと思いPCR検査を受けたところ感染していました。

新型コロナウイルスに感染して大変だった事は、スマホを使っての厚生労働省が開発した健康観察ツール My HER-SYSへの登録と毎日の健康状態の入力をして返信する作業、保健所への対応、発熱外来をしている病院を探す事でした。特に病院はお盆の時期ということもあり、やっと小児科の発熱外来をしている病院を見つけるも自宅からは1時間かかる所を紹介されました。病院に向かう間に子どもの体調が急変しないか心配でした。

その後、子どもたちと私の発熱や喉の痛みは3日ほどで落ち着きました。濃厚接触者の待機期間から自宅療養期間の17日間はお休みする事になり入居者の方、職員の方にはご迷惑をおかけし申し訳なく思っています。

コロナの療養期間が終わると嬉しい反面、職場に出勤して他の方に感染させてしまったらどうしようと不安がありました。隔離期間終了後に職場でのPCR検査や抗原検査など2回検査を受けてさせて頂き、2回目で陰性が分かった時はようやく安心することができました。



恐るべし新型コロナウイルス

サービス管理責任者 増田 周作

今年のお盆休みは家族と一緒にのんびり自宅で過ごしていたのですが、息子が急に「熱くて眠れない」と明け方4時頃に起きてきました。この時はエアコンが切れたから目が覚めたくらいに思っていたのですが、朝になり熱を測ってみると「38.5℃」にもしやこれは・・・。

7月中旬ごろから、県内でも新型コロナウイルス感染者が1000人を超えて発生し夏休みも学童保育に通っているわが子には毎日、マスク着用、消毒、手洗い、うがい等、家庭でできる予防対策は気を付けていたのですが、恐るべし新型コロナウイルス。

コロナ以外の発熱であってくれと思いましたが、最悪の事態を考え、できるだけ隔離して看病をしました。しかし、まだ小学1年生の子どもを一人きりにしておくわけにもいかず、妻と協力しながら対応にあたることになりました。

そうこうしている内に、上の娘も発熱しはじめ、子ども二人を連れて病院で検査してもらうのに、2時間以上の待ち時間を要しました。その間に体調が急変しないか気が気ではありませんでした。

子どもたちの発熱は2日ほどで落ち着き、いつも通りの様子に戻り一安心しました。私も濃厚接触者ということで5日間の自宅隔離となりました。

私は、体調に変わりもなく、濃厚接触者の待機期間である5日間が終了したので職場復帰をするにあたりPCR検査を受けることになりました。感染対策をしていたにもかかわらず結果は陽性でした。そこからさらに7日間の隔離期間を要することになりました。感染しないように気を付けていたのですが、現在流行しているオミクロン株のBA.5はかなり感染力が高く、家庭内での感染を完全に防ぐのは相当難しいものだと思います。

お盆休みを含めて2週間以上休むこととなり、自宅待機期間の間は検査に出る以外に一切外にもでることなく、両親に玄関先まで食料をもってもらうという日々が続きました。

感染発覚後に、My HER-SYS への登録と保健所への報告があるのですが、ネットやスマホに慣れていない方には、大変手間な手続きとなります。もし入居者が罹患した場合には体調を気に掛けるとともに、様々な手続きや食事の準備、中には体調が回復すると隔離期間中にいつものように外出してしまうこともあるかもしれないと、いろんなことを考えさせられる時間となりました。

当法人の入居者、職員をはじめ、関係機関各所、ご迷惑をおかけしました。

新型コロナウイルス感染症の恐ろしさを、身をもって知ることができました。



事務局だより

事務局 増田 周作

あっという間に夏が終わり、2022年度も折り返しとなりました。

グループホームネット香川は、入居者にはじまり、入居者のご家族の皆様、市役所や保健所、病院、サービス事業所などの各関係機関の方々、また大家さん、不動産管理会社の方々、地域の多くの人たちと関係しています。

時に、ご迷惑おかけすることもありますし、感謝されることもあります。うまくいかないときもあれば、思いもよらず好転することもあります。

当法人の理念でもある「ネットワーキング」様々な価値観があっても、対話を通じてお互いに関係性を深めていくことで、多種多様な人たちの参加を得ていく、そんな寄せ集めを強みとし、今後も活動を続けていければと思っています。

編集後記

今、私は11月で3歳になる猫の「ダダ」を連れて親類宅に居候しています。

居候先には10カ月になる先住の「チャチャ」と「ムニ」の2匹の猫がいます。

子猫たちはダダの尻尾にじゃれたり、臭いを嗅いだりと友好的にもてなしてくれます。しかし、ダダは子猫が近寄ってくると「シャー」と声を荒げて攻撃態勢に入ります。このようなことが2カ月ぐらい続いたかな。なかなか馴染まないダダに可哀そうなことをさせていると思ったものです。

それが3カ月たった今、そのような様子も見られなくなり、お互いにトイレを使い合ったり、食事をしたりと仲の良い光景が見られるようになりました。

猫の共同生活でも我慢をし、許し、受け入れができるんだということが分かりました。人も共同生活を送るうえで、許す気持ちや多少の我慢が必要なのかもしれません。大事なことを猫に教えられたような気がします。 (天満)



(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955